

郵便振替＝00100-3-749814 名義「上島敏昭」

大道芸アジア月報 2020 年 1 月

vol. 31、no. 1

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

■大道芸案内

主な大道芸スポット（土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント）

■大阪・天保山海遊館広場 ■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>■お台場・デックス東京ビーチ ■クインズスクエア横浜 at! www.studioeggs.com ■名古屋・大須ふれあい広場■ヨコハマ大道芸（山下公園、グランモール公園、ジャックモール） <http://daidogeij.jp/>■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/> ■東京都ヘブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/■江ノ島大道芸 <http://www.fujisawa-kanko.jp/alacarte.html>■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

★浅草雑芸団の旅

井の頭自然文化園お正月イベント 2020 年 1 月 2 日（木）11:00～15:30

はるこま七福神めぐり 2020 2020 年 1 月 3（金）10:00～16:00 隅田川七福神 三囲神社 向島 2 丁目町会

すみだ郷土資料館 お正月イベント 2020 年 1 月 4 日（土）13:00～14:30

★今月の大道芸公演

△ギア GEAR <http://www.gear.ac/>

○千葉ポートシアター（京葉線「千葉みなと」駅下車）

●1 月より連日（火・水は休演）開演時間は要確認

ブレイクダンス、マジック、マイム、ジャグリングなど融合した劇場パフォーマンス。

ジャグリングには、森田智博、ボンバンダー、CONRO、小林智宏、KaNaTa 等が出演

問合せ・電話 050-5238-3533（イーストバジョン公演事務局）

△第 17 回さいたま新都心大道芸フェスティバル <https://www.saitama-arena.co.jp/>

○さいたま新都心、さいたまアリーナほか

●1 月 11（土）／12（日）

Les Dudes、中国雑芸芸術団、3 ガガヘッズ、5039（こーさく）、AYACHYGAL、Daggle KOMEI、EPPAI&マサトモジャ、HIBI☆Chazz-K Hiro&AG、ideo 2、Juggler Laby、PerForMer ZEN、Suke 3 & SYU、TOMI、Witty Look、NiA、あっぱれ！吉沢屋、内田しげ美、江戸糸あやつり人形、加納真実、叶結 Kanauknot、キヨノカ、芸人まこと、健山、ココナッツ山本、小林智裕、サクノキ、まわり道、サブリミット、サンキュー手塚、松鶴家天太、シルヴプレ、ひこひこ、フレディーノ、セクシー DAVINCI、ゼロコ、バーバラ村田、森田智博、油井ジョージワンマンバンド、

回遊型：HARO、nanisole、okk、ガンジスインダストリー、フェイスペインター☆ヒホウ、

ボード山田

定点型：Shiva、アートパフォーマー☆ファイター☆、コバヤシユウジ、松本かなこ、

△亀戸大道芸 vol.11

○亀戸十三間通り商店街

●1 月 12（日）12:00～16:00

しゅうちょう、ぼこでこび、ハードパンチャーしんのすけ、PESTRICA、アンティークドールリリー

△ヘブンアーティスト in 渋谷 2020 <http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/heavenartist/>

○渋谷・東急 109、道元坂かいわい

●1 月 13（月・祝）

Asia Gold Pro Wrestling、Eppai&マサトモジャ、片腕のマジシャン HAKU、KARAQRI、空転軌道、Juggler KaNaTa、松鶴家天太、Suke3&SYU、ゼロコ、中国雑芸芸術団、パフォーマーZEN、Hibi&Chazz-K、Hiro&AG、油井ジョージワンマンバンド、U-stage、ユキンコアキラ、リューサー

△ドキュメンタリー映画 ケント・W・ダール監督「東西! 東西!」上映&トーク <http://eyefishmedia.com/film-tozai-japanese.html>

○高円寺 Grain グレイン（杉並区高円寺北 3-22-4 UK ビル 2F、JR 高円寺駅下車徒歩 2 分。北口中通り商店街・中華「成都」2F）

●1 月 16（木）18:30

映画「東西! 東西!」第 1 編の上映、ちんどん屋東西屋リーダー林幸治郎とケント・ダール監督の対談、林幸治郎と歌手ミラキンによる歌と演奏など、もりだくさんな一夜

予約 ¥1000、当日 ¥1500（いずれもドリンク代+ ¥500）

予約：e-mail kouenji@grain.comHP <http://grain-kouenji.jp>

△蕨 OurDelight パフォーマンスカーニバル vol.21 「マイムトゥ 90 's」

○蕨市・ライブハウス OurDilight <https://www.facebook.com/pg/p.ourdelight/posts/>

●1月18(土) 19:00 開演 / 1月19(日) 13:00 開演

出演: 加納真実、バーバラ村田、堀江のぞみ、重森一、安田太朗、チャタ

料金: 予約・当日とも 3000円 (+ソフトドリンク代 500円)

<ご予約方法> <https://www.facebook.com/pg/p.ourdelight/posts/> を開き、専用予約フォームで

△説経浄瑠璃鑑賞会「説経節と人形の共演」 http://sekkyou.s371.xrea.com/?page_id=51

○板橋区立成増アクトホール

●1月18(土) 13:30

出演: 若松若太夫(石童丸〜山めぐりから札書き、日高川入相櫻〜清姫怨霊の段) 共演: 横瀬人形芝居保存会

入場無料(先着順)

問合せ: 板橋区教育委員会生涯学習課文化財係: 03-3579-2636

△ダメじゃん小出の黒く塗れ! 新春 18 きつぷ <http://nigiwaiza.yafjp.org/>

○横浜にぎわい座小ホール

●1月25(土) 昼の部 14:00 / 夜の部 18:00

前売¥2100(当日¥2600)

問合せ: 横浜にぎわい座: 045-231-2515

△サーカス学セミナー「澤田隆治サーカスを語る」

○早稲田大学富山キャンパス 36号館 682教室

●2月1(土) 14:00

出演: 澤田隆治(聞き手: 大島幹雄・サーカス学会会長)

「てなもんや三度笠」「スチャラカ社員」などのテレビ番組を演出し、「視聴率 100 パーセント男」の異名をもち、花王名人劇場やズームイン朝などの人気番組をつくりだした大プロデューサー・澤田隆治がサーカスについて初めて語ります。聞き手は、サーカス学会会長で雑誌『論座』で連載された「澤田隆治プロデューサー一代記」の聞き手をつとめた大島幹雄がつとめます。

どなたでも入場できます

△サラリーマン現代サーカス「CLONES」(大阪府ナイトカルチャー発掘・創出補助事業) <https://clones.jp/>

○COOL JAPAN PARK OSAKA (TTホール)(大阪市中心部大阪城 3-6)

●2月7(金)〜11(火祝) 各 20:00 開演 / 土・日・祝日は 13:00 開演もあり

原作: KAMIYAMA、音楽: ANALOGIX、出演: KAMIYAMA、望月ゆうさく、品川ミズキ、Gregory McElroy、Ariel Anne Mosier、Hugo Neol、Jean-Denis Roy

¥6800(全席指定)

予約・問合せ: チケットよしもと予約問合せダイヤル 0570-550-100

△山本光洋ソロライブ丘を越えて vol.3

○中野・plan-B

●2月13(木) 19:30 / 14(金) 19:30 / 15(土) 14:00&18:00

一般(予約・当日) ¥3000、大学生・専門学校生 ¥2000、高校生以下 ¥1000

予約・問合せ: 山本光洋 office: 03-3951-1999

△第 31 回民俗芸能と農村生活を考える会 <https://www.znk.or.jp/event/>

○日本教育会館 3階「一ツ橋ホール」(東京都千代田区一ツ橋 2-6-2)

●2月15(土) 13:00 開演

出演: 奈川獅子(長野県松本市)

入場無料※要申込み。下記のいずれかの方法で申込んでください。

①ホームページから ②往復ハガキで ③FAXで

申込み&問合せ: 〒101-0021 東京都千代田区外神田 1-16-8 N ツアービル 4F

(一社) 全国農協観光協会 「民俗芸能と農村生活を考える会」係

電話: 03-5297-0321/FAX: 03-5297-0260

△第 20 回地域伝統芸能まつり テーマ「競う」 <http://www.jafra.or.jp>

○渋谷区・NHKホール

●2月23(日) 14:30 開演

出演: 一人角力(今治市)、秋田竿灯まつり(秋田市)、座喜味棒術(沖縄県読谷村)、江戸火消しの梯子乗り(東京都)、三島囃子(静岡県三島市)、能「舍利」(観世流)、下水流臼太鼓踊り(宮崎県西都市)、高田神社横野獅子舞(岡山県津山市)、阿波おどり(徳島市)

入場無料※要申込み。下記のいずれかの方法でお申込みください。締切: 1月31日

①インターネットから ②往復はがきで

申込み&問合せ: 〒150-0047 東京都渋谷区神山町 5-5 NRビル 5F

「地域伝統芸能まつり」鑑賞応募事務局

電話: 03-5777-8600

若林正の

食って極楽

味も量も満足な中華屋

・・・御徒町・中華料理「天外天」

明けましておめでとうございます。気づけばこのコラムも二十年以上。始めは三十代だったから、味より量的な感じだったが（今もそうか？）今回は味も量も良い店。

年末 X'mas 時期に御徒町の民家で芝居をやった。十数年振りに会う友人も遠方より見に来てくれた。当然一杯やろうとなり、女房と三人で飛び込んだのが「天外天」という中国料理の店。

千駄木にある同じ名前の有名店とは関係無さそう。昭和通りの交差点手前、道を挟んで向かいが多慶屋という分かりやすさ。大して期待してなかったけど、メニュー見てビックリ！豚の血の腸詰め、蚕の炒め物、骨付き羊の煮込みなど珍しい料理のオンパレードに、三人とも狂喜。まずは店主お勧めの白菜漬け物と豚の血腸詰めの鍋¥1580、家鴨の頭の燻製など盛り合わせ前菜¥1200を頼んで味と量の様子見。運ばれた料理にまたもビックリ!! 三十cmほどの大鍋に並々と白菜に腸詰め、これで一人前？前菜も六種類くらい盛り合わせてあり、見ただけでこりゃ腹一杯。

味も最高で、酸っぱい古漬け白菜が鳥スープでよく煮えてうめえのなんの！腸詰めは意外と普通の味で、もっと血の風味があれば、申し分なし。それを食らいながら芋焼酎の五合瓶を一本空けて大満足。¥で¥五千元ちょいの会計にも感激！帰りがけにランチメニューを見ると¥700均一で、これまたンまそうな品揃え。改めて看板見ると、中国東北料理とあり、こりゃ穴場だと確信した。ちなみに芝居の打ち上げもこの店で行い、三千円で飲み食い放題、酢豚やエビチリなど普通の中華も非常に美味でありました。○今度は蚕食ってみたい度＝7ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり

☆その 338

2019 年、大道芸界のトピック

上島敏昭

2020 年の年頭にあたり、昨 2019 年の大道芸およびその隣接芸能について、どのような出来事があったのか。現時点で、わたしにわかる範囲で記録しておきたい。

◆サーカス学会の設立

数年前から準備されてきた「サーカス学会」が設立された。6 月 29 日に早稲田大学内で設立総会が行われ、正式に発足した。会長は大島幹雄・サーカスプロデューサーで、ノンフィクション作家。『明治のサーカス芸人はなぜロシアに消えたのか』（新潮文庫）などの著書がある。また顧問は桑野隆・元早稲田大教授（露西亜文学）と澤田隆治・テレビ&芸能プロデューサー。

設立総会は大熊ワタル・みわぞうによるオープニング演奏で幕をあげ、会長、顧問、副会長（竹内正則、矢熊進之助）を承認したあと、顧問の桑野隆による記念講演「文化空間のなかのサーカス」がおこなわれ、その後、日本未公開の映画「幻想的サーカス（Circus Fantastics）」

<https://www.youtube.com/watch?v=vXXGPR5tYY4>



（監督：ヤネズ・ブルゲル、出演：レオン・ルチュフ、ラビル・スルタノフほか。スロヴェニア映画。2012 年制作）の上映がおこなわれた。

同会は、サーカスを愛し、サーカスに関心がある者は誰でも会員になることができる。年会費は、一般会員¥4000、学生会員¥1000、団体会員¥10000。活動内容は①機関誌（年一回）発行、②公開講演会の開催、③サーカス学ゼミ開催（月一回程度）、④サーカス情報の発信と収集、⑤世界のサーカス団体との交流など。

サーカス学ゼミは、毎月、東京都北区王子の古書カフェくしゃまんべで、ほぼ毎月開催され、映像を交えた研究発表と報告などが行われている。また Facebook が開設され、東京、大阪などの大都市はもちろん、国内外のサーカス、パフォーマンス情報がつぎつぎに発信されている。URL は下記。

<https://www.facebook.com/CIRCUSGAKKAI/>

◆丸木美術館でサーカス博覧会

4 月 6 日から 5 月 26 日まで、原爆の図丸木美術館（埼玉県東松山市）で、「サーカス博覧会」が開催された。これは 2018 年にポレポレ坐（東京都中野区）で開催された見世物学会主催の本橋成一氏旧蔵サーカス資料展示をベースに、さらに発展させたものである。内容は 2018 年も展示された、本橋成一撮影による韓国サーカスの写真と本橋旧蔵のサーカス資料（サーカス芸人のプロマイド、記録ノート、木下サーカスの稽古風景の映像など）に加え、澤田正太郎画伯のサーカスの絵画、さらに都筑響一および鶴岡正樹所蔵の見世物とサーカスの絵看板、栃木県佐野市の人形工房・丸山巧芸社所蔵のサーカス絵看板など。メイン展示室は小学校の

体育館のような空間で天井が高くて広い。その三方の壁にずらりと貼りまわされた数十枚のサーカス・見世物絵看板は壮観であった。

期間中には俳優・石丸謙二郎によるサーカスクラウン体験記、都筑響一のギャラリートーク、浅草雑芸団メンバーによる大道芸などが行われ、祝祭性も豊かな催しであった。また、企画終了後、同企画に展示された資料、100 点以上をカラーで収録した『サーカス博覧会記録集』が作られた。A5 判、中綴じ、40 頁。全ページカラー。ポレポレ坐にて 600 円（送料別 188 円）で販売されている。



◆原爆の図が紙芝居になる

もう一つ、原爆の図丸木美術館関連の出来事を挙げておきたい。丸木美術館と紙芝居出版・童心社のコラボにより、詩人のアーサー・ビナードによって原爆の図をもとに紙芝居「ちっちゃな こえ」が制作され、大きな話題となった。出版にさきだって 4 月 20 日、同美術館でお披露目が行われ、その後、7 月に同美術館とポレポレ坐で実演・発表の催しがおこなわれた。

紙芝居制作者のアーサー・ビナードは 1967 年アメリカ生まれの詩人でラジオ

パーソナリティ。1990 年に来日し、2001 年、詩集「釣り上げては」で中原中也賞を受賞。その後、文筆以外にもラジオなど多くのメディアで活躍している。戦争問題を正面から取り組んだ文章や書籍も多く、核問題についても発言している。この紙芝居は丸木夫妻の「原爆の図」より場面や部分を切り取って、再構成して、ストーリーを付けたもので、完成に数年を要したという。主人公はネコ。原爆が人間だけでなく、動物や植物、あるいはすべての地球の生き物、生態系を破壊してしまうことを鋭く、告発している。発売は童心社。¥2700＋税。



◆国立劇場で「祝福芸」を特集

国立劇場第 134 回民俗芸能公演が、7 月 27 日、同小劇場で開催され、「祝福芸」と題して 3 つの門付け・祝福芸が紹介された。出演したのは、三河万歳（安城の三河万歳保存会・愛知県）、阿波木偶の三番叟まわし（阿波木偶箱まわし保存会・徳島県）、春駒（一之瀬高橋春駒保存会・山梨県）である。

パンフレットには次のように書いている。

＜祝福芸とは、祝言を音曲的に唱えることを主体とする芸能で、主に新春に家々を廻る門付け芸として伝承されてきました。本公演では、前半に代表的な門付け芸を、後半はその門付け芸から派生した娯楽的な演目をご紹介します。＞

祝福芸を民俗芸能として紹介することは今までに何度もあったが、たいていは、民間信仰的な面を強調して、儀式としての門付け芸を見せることが多かった。今回は、より娯楽的な演目も披露するというのである。この娯楽的な演目が、現在われわれが一般的にイメージする「大道芸」と考えてよいと思う。民俗芸能公演も少しずつではあるが変化しているのだと感じた。

第一部で、三河万歳は、神道三河万歳「三羽鶴の舞」と御殿万歳「七福神の舞」を演じ、阿波木偶箱まわしは、「三番叟まわし」を演じた。これらはいわゆる儀式性が高いもの。仰々しく神秘的な演目である。

第二部の演目は、三河万歳は三曲万歳、阿波木偶箱まわしは箱まわしであった。三曲万歳とは、三味線・胡弓・鼓の伴奏による語りで演ずる芝居で、この日の演目は「忠臣蔵三段目 裏門の場」。代表的な滑稽演目で、かつて三曲万歳の定番であった。最近では演ずることは珍しいが、明治期から大正期にかけてさかんに演じられて、ここから現在の漫才が生まれてきた。

阿波木偶箱まわしの会の演じた「箱まわし」は、人形浄瑠璃の有名な場面を切り取ってみせるもの。この日の演目は「傾城阿波の鳴門」「絵本太功記」「日高川入相花王」の 3 つ。人形遣いは人形を遣いながら語りも勤める。一演目はそれぞれ数分だが、つぎつぎに人形を持ちかえて演じるのは、かなり体力も必要で、なかなか大変だ。またそれぞれの演目に登場する人形を、すべて背景のように演技場に並べる。一演目に 5 体ほど、3 演目で約 15 体がずらりと並ぶ。きれいな顔ときらびやかな衣装の人形は一体で百万円近い値がする。つまり、ここに並んでいる人形だけで一千万円以上！ そういう豪華さをみせるのも、箱まわしの魅力だったのだろう。

それに対して一之瀬高橋の春駒は、山梨の黒川金山ゆかりの地域に伝承された芸能で、佐渡の春駒との関連も推察されている。昭和の末期まで、地域の存在証明のように演じられていたが、地域の消滅と同時に途絶えた。それを県の博物館がプロジェクトを組んで復活させた。そんな意味で現在の地域芸能の特筆すべき事例であろう。

以上、三者三様の祝福芸で、考えさせられることが多い公演だった。



◆ギリヤーク尼ヶ崎と坂本長利

ギリヤーク尼ヶ崎と坂本長利はともに 1960 年代から、街頭を舞台として活動を重ねてきた。舞踊と芝居、それぞれ別々のジャンルだが、ギリヤークは 89 歳、坂本は 90 歳ながら、2019 年も存在をアピールした。

ギリヤーク尼ヶ崎は 1930 年、函館市生まれ。大道芸界では知らぬものはないパフォーマー。彼が大道で活動をはじめたころはパフォーマーなどという言葉はない。自著では、子どものころにやって来た角兵衛獅子などのイメージから大道での舞踊をはじめたと述べているが、同時代に描かれた斎藤真一の瞽女や津軽三味線芸人などの絵画からモチーフを得ているように思う。いずれにしてもまだ大道芸という言葉が差別的に語られたころから、街頭で踊り続けてきた。1980 年代初期から秋の風物詩となっている新宿三井ビルの 55 広場での公演には、今年も数百人のファンが集まった。あいにくの大雨で登場が危ぶまれたが、車いすに乗って登場し、命の限りの踊りを見せた。

坂本長利はテレビドラマの「北の国から」などにも出演していたから知っている人も多い。1929 年生まれ俳優。民俗学者・宮本常一聞き書き「土佐源氏」を一人芝居に仕立て上げ、1960 年代から、ギリヤーク尼ヶ崎と同様、半世紀以上、演じ続けてきた。内容は、土佐の構原の橋下に暮らす元博労で盲目の老人の一人語り。はじめは新宿のストリップ劇場の幕間に演じられたが、その後、出前芝居と称して民家のガレージや庭先などでも演じてきた。今年は宮本の出身地である周防大島町のあと東京の座・高円寺で、卒寿記念と銘打って公演した。一時間以上、たった一人で舞台を勤める姿は、ギリヤーク同様、感動的であった。

